

より良い子育て環境づくりで優れた成果をあげている団体・個人 15 組と
子育てをしながら人文・社会科学分野の研究を行う女性研究者 10 名を選出

文部科学省・厚生労働省後援 住友生命社会貢献事業 第 9 回『未来を強くする子育てプロジェクト』受賞者決定

【子育て支援活動の表彰】

- スミセイ未来大賞・文部科学大臣賞 1 組
特定非営利活動法人 **てんやく絵本ふれあい文庫(大阪府大阪市)**
～「てんやく絵本」の製作・貸出・普及を通じて、誰もが絵本を楽しむことのできる環境づくりを～
- スミセイ未来大賞・厚生労働大臣賞 1 組
特定非営利活動法人 **療育ファミリーサポートほほえみ(沖縄県島尻郡南風原町)**
～重度障がい児のファミリーサポートとお子さんを亡くされた家族のグリーフケアを実施～
- スミセイ未来賞 10 組
- スミセイ復興応援特別賞 3 組

【女性研究者への支援】

- スミセイ女性研究者奨励賞 10 名 ※受賞者一覧は次項をご参照ください

住友生命保険相互会社(社長 橋本雅博)は、平成 19 年からより良い子育て環境の整備にむけた「未来を強くする子育てプロジェクト」に取り組んでおります。

この一環として、より良い子育て環境づくりに取り組み、優れた成果を上げている団体や個人に贈る「子育て支援活動の表彰」と、人文・社会科学分野を専攻し、現在子育て中でもある女性研究者を支援する「女性研究者への支援」の 2 つの公募事業を実施しており、これまで過去 8 回の表彰を通じて、80 組の子育て支援活動と、81 名の女性研究者への支援を行ってまいりました。

第 9 回目である本年度は、子育て支援に資する諸活動を行っている団体・個人 187 組、育児を行いながら研究を続けている女性研究者 123 名の応募の中から、以下のとおり 15 組の活動と、10 名の研究者支援を決定いたしました。

また、表彰式を、平成 28 年 2 月 22 日(月)にホテルニューオータニ東京にて開催いたします。

各募集事業の概要・受賞者については、次頁の通りです。

<第9回『未来を強くする子育てプロジェクト』受賞者一覧>

◎子育て支援活動の表彰 15組

【スミセイ未来大賞・文部科学大臣賞】

- 特定非営利活動法人 てんやく絵本ふれあい文庫（大阪府大阪市）

【スミセイ未来大賞・厚生労働大臣賞】

- 特定非営利活動法人 りょういく療育ファミリーサポートほほえみ（沖縄県島尻郡南風原町）

【スミセイ未来賞】

- 特定非営利活動法人 うりずん（栃木県宇都宮市）
- 特定非営利活動法人 ライフかわね来風 たくしぎょうぶ—ママ宅事業部—（静岡県榛原郡川根本町）
- ぐるぐるアート せわにんかい世話人会（鳥取県米子市）
- 元気アートプロジェクト（福岡県福岡市）
- 特定非営利活動法人 シェイクハンズ（愛知県犬山市）
- しぶたね(きょうだい支援たねまきプロジェクト)（大阪府大東市）
- 特定非営利活動法人 そらいろプロジェクト京都（京都府京都市）
- 特定非営利活動法人 ダルク女性ハウス（東京都北区）
- 特定非営利活動法人 はったつてこぼこ発達凸凹サポートデザインかたつむり（東京都八王子市）
- 特定非営利活動法人 よいちきょういくふくしむら余市教育福祉村（北海道余市郡余市町）

【スミセイ震災復興応援特別賞】

- こおりやま福来応援隊 ふっこうおうえんたい（福島県郡山市）
- 特定非営利活動法人 ひがしにほんだいしんさいけんいきそうせいこそだてシップ（岩手県大船渡市）
- 東日本大震災圏域創生NPO センター「いしのまき寺子屋」 てらこや（宮城県石巻市）

◎女性研究者への支援 10名

【スミセイ女性研究者奨励賞】

- アリポヴァ カモラさん（京都府京都市）
- いわせ ゆうこ岩瀬 裕子さん（東京都杉並区）
- うえ あきこ植 朗子さん（兵庫県西宮市）
- しらが あきこ白神 晃子さん（長野県長野市）
- たむら さいこ田村 彩子さん（大阪府枚方市）
- はやし じゅんこ林 淳子さん（東京都文京区）
- ベク ルン白 凜さん（埼玉県草加市）
- まつもと みよ松本 美予さん（大阪府大阪市）
- やまもと かな山本 佳奈さん（広島県福山市）
- よしだ まい吉田 舞さん（広島県広島市）

◎子育て支援活動の表彰 15 組

スミセイ未来大賞 2 組

文部科学大臣賞

■特定非営利活動法人 てんやく絵本ふれあい文庫 （大阪府大阪市）

～「てんやく絵本」の製作・貸出・普及を通じて、誰もが絵本を楽しむことのできる環境づくりを～

絵本は子どもの心を豊かに育む大切な子育てツールのひとつです。しかし、書店で売られる絵本のほとんどは、視覚障がいを持つ親にとっては、読むことすらできず、子どもと一緒に楽しむことが難しい状況でした。そこで、視覚障がいの方はもちろん、誰もが絵本を楽しめる環境を整えるために、市販の絵本に塩化ビニール製のシートを貼りつけて文字と絵に点訳をほどこす「てんやく絵本」の製作・貸出を中心とした活動開始し、多くのボランティアの協力を得て、年間 350 冊ペースで製作。今では、「てんやく絵本」の蔵書は 10,000 冊を超え、絵本を必要とする全国のご家族、そして学校や図書館などに郵送による貸出サービスを 30 年以上継続して行っています。



厚生労働大臣賞

■特定非営利活動法人 ^{りょうい}療育ファミリーサポートほほえみ （沖縄県島尻郡南風原町）

～重度障がい児のファミリーサポートとお子さんを亡くされた家族のグリーフケアを実施～

近年、重度の障がいを持った子どもたちが、日常的に医療的なケアを受けながら自宅で過ごすケースが増えています。そうしたご家庭に対して看護師などの資格を有したボランティアスタッフを派遣し、子どもたちの見守りや送迎のお手伝いをする活動を実施。同時に、代表の想いもあり、子どもを亡くしたご家族のケアにも取り組み、グリーフケアの啓発も展開しています。

福祉事業所などの機関とご家族とを丁寧につなぐことで、子どもを安心して地域に託すことのできる環境づくりも進めており、現在は、療育ファミリー応援雑誌「Family」を発刊し、県内の医療機関や特別支援学校などに無償配布するなど情報発信活動にも力を入れています。



スミセイ未来賞 10組

■特定非営利活動法人 うりずん（栃木県宇都宮市）

～医療依存度の高い子どもを預かり、ご家族にひと時の安心・安全・安楽を提供～

人工呼吸器や経管栄養などの医療依存度の高い心身障がい児を預かり、家族にひと時の休息をお届けするレスパイトケア事業を実施。栃木県内には重度の障がいを抱える子どもに対応できる施設が少なく、活動拠点である宇都宮市だけでなく、周辺の地域からも利用者が訪れています。「うりずん」では現在、約30名の日中お預かりと、約15名の居宅介護を行っています。今後は、増え続けるニーズに対応すべく、放課後デイサービスや居宅訪問型保育などにも活動の幅を広げ多くの子どもたちを受け入れ可能な施設の拡充を目指しています。



■特定非営利活動法人 ^{ライフ}かわね来風 ^{たくじきょうぶ}—ママ宅事業部—（静岡県榛原郡川根本町）

～地域のなかで孤立しがちな高齢者とママたちを、お弁当の宅配を通じてつなぐ～

静岡県川根本町は高齢化・少子化が進む環境であり、子育て中のママにとって交流の場が少なく家に引きこもりがちになる傾向があります。また高齢者にとっても山間部のため移動や買い物が困難であり、孤立しがちになるといった問題を抱えています。そこで「ママ宅事業」では、子育て中のママが子どもを連れて高齢者宅にお弁当を配布する事業を展開し、子育て中のママの活躍と高齢者の見守りといった両方の問題をケアしています。この他、ママたちが気軽に参加できるイベントや講座を企画・開催する「ママ活事業」の実施など、子育て中のママたちに活躍の機会を創出しています。



■ぐるぐるアート ^{せわにんかい}世話人会（鳥取県米子市）

～「ありがとう」の言葉でつなぐ感謝の心を育むアート教室～

ぐるぐるアートとは、マンダラ絵に着想を得たアート手法。「ありがとう」の文字を渦巻き状につなげて描き、文字を色分けすることでデザインを浮かび上がらせていきます。制作を通じて子どもたちは、家族や友人、自然や社会といった身の回りのあらゆるものから、いかに多くの恩恵を受けているかに気づくことができます。

近所の子どもたちを対象に小規模な形で始まったぐるぐるアートは、その後たくさんの賛同者と協力を得て、数多くの学校やサロン、イベントなどでも教室が開催されています。これまでに13,000人を超える子どもたちが体験し、近年では海外にも展開されています。また2001年から毎年、鳥根県立美術館にて「ぐるぐるアート展」を開催しています。



■元気アートプロジェクト（福岡県福岡市）

～つらい病気と闘う子どもたちを、アートの力で元気づけたい～

九州大学病院の小児医療センターには重度の病気を抱えた子どもたちが多数入院し、つらい治療の合間に保育や学校教育を受けています。日々病気と闘う子どもたちをアートの力で少しでも元気づけたいという代表の呼びかけに、地域のデザイナー、音楽家、建築家、写真家、書家などさまざまな分野の専門家が賛同し、活動がスタート。院内学級においてデザインや音楽の授業を行ったり、入院児のためにコンサートやワークショップを開催、子どもたちが病院内でも生き活きとした時を過ごせるように活動を展開しています。



■特定非営利活動法人 シェイクハンズ（愛知県犬山市）

～多様な困難を抱える外国籍の子どもと親のための学習支援・地域交流活動～

外国籍の住民が数多く暮らす愛知県の犬山・小牧地域には、言葉の壁にぶつかって学校に馴染めず、授業にもついていくことのできない子どもたちが少なくありません。そうした子どもたちのための放課後の居場所づくりと学習支援を中心に、親世代も含めた外国籍住民と地域住民との交流活動などを実施しています。

学習支援を行う子どもたちの中には、発達障がいを持った子どももいるため、そうした子どもたちを対象にした特別なクラスなども設けています。子どもたちの年齢や日本語の習熟程度、そして障がいの有無といった個性の違いを踏まえたさまざまなクラスを週6回にわたって開催することで、多様な困難を抱える外国籍住民を広くサポートしています。



■しぶたね(きょうだい支援たねまきプロジェクト)（大阪府大東市）

～病気を持つ子どもの「きょうだい」が主役となれる居場所づくり～

子どもが重い病気にかかると親の目はどうしても病児に集中します。実際に小児病棟では、感染予防のため病棟の外で寂しそうに親を待つ幼いきょうだいたちの姿を目にすることも珍しくありません。そうした見過ごしがちな病気の子どもの「きょうだい」にスポットを当てた活動を展開しています。

定期的に開催している「きょうだいの日」では文字どおり、その日一日は病児のきょうだいたちが主役となり、さまざまなアクティビティを実施。同じ境遇にある子どもたちが出会い、そして思いを共有する場にもなっています。それと併せて、面会中の親を待つきょうだいたちの居場所づくりと楽しみの提供を兼ねた院内での活動も積極的に行っています。



■特定非営利活動法人 そらいろプロジェクト京都（京都府京都市）

～発達障がいを持った子どもたちのためのヘアカット「スマイルカット」を実施～

理美容室の椅子にじっと座って髪を切ってもらうことが苦手な発達障がい児のためのヘアカット「スマイルカット」を実施するとともに、この取組みに対する理解と協力を社会に広げるための啓発活動を展開。

長時間座っていられなかったり、ハサミやバリカンの音に敏感だったり、発達障がいを持った子どもたちが苦手とすることはさまざま。スマイルカットの輪を全国に広げることで、発達障がいを持った子どもたちがいつでもどこでも当たり前前にヘアカットができるような環境を整えていくことを目指しています。



■特定非営利活動法人 ダルク女性ハウス（東京都北区）

～依存症の女性とその子どもを、社会につないでいくための支援活動～

薬物・アルコール依存症女性の回復と自立をサポートすることを目的に設立された、日本で最初の民間施設。女性の場合、幼少期のネグレクトやパートナーからの暴力などが原因で依存症になるケースが多く、自分の子どもに対しても同様に振る舞ってしまうことが少なくありません。そうした負の連鎖を断ち切るべく、母子が良好な関係を築いていくためのさまざまな支援活動を行っています。また、医師、看護師、精神保健福祉士、スクールソーシャルワーカーなど多くの専門家と連携して支援のネットワークをつくるなど、複合的かつ継続的なサポートも展開しています。



■特定非営利活動法人 ^{はったつてこぼこ}発達凸凹サポートデザインかたつむり（東京都八王子市）

～公的支援の手が届きにくい、発達に凸凹のある子どもとその家族を支える活動～

発達に凸凹のある子ども、すなわち、発達障がいや類似する特性を抱える子どもたちを取り巻く環境は、いまだに多くの誤解や偏見に満ちあふれており、同時に、そうした子どもを持つ親に対する理解や支援も十分とは言えません。同じ悩みを抱える母親同士の「親の会」としてスタートし、当事者目線から、凸凹のある子どもとその家族をサポートする活動を行っています。

活動開始当初から行ってきた情報交換や悩み相談の場としてのカフェ事業と並行して現在は、子どもたちの日々の学習を支援する「キッズラボ」、ならびに野外活動を始めとした体験型プログラムを提供する「ソーシャルラボ」といった取り組みにも力を注いでいます。



■特定非営利活動法人 よいちきょういくふくしむら 余市教育福祉村（北海道余市郡余市町）

～余市の農場で、フリースクールなどに通う子どもたちに豊かな自然体験を提供～

札幌で不登校などの問題に取り組んでいた有志が中心となって設立。子どもたちの自立支援には農作業を始めとした自然体験が効果的だと考えていたこともあり、フリースクールの生徒たちを積極的に受け入れて農業指導などを行っています。

当初は子どもたちの自立支援を目的とした活動が中心でしたが、現在は農場を利用する人たちの目的も多様化し、都市部の幼稚園や保育園に通う子どもたちによる農業体験や、地元の高校との連携など余市の豊かな自然を活かした独自の子育て支援活動を実施しています。



■スミセイ震災復興応援特別賞 3組

■ふっこうおうえんたいこおりやま福来応援隊（福島県郡山市）

～「社会のために何かしたい」という想いを、子どもたちが主体となって形にする～

3人の小学5年生(当時)が発起人となり、「自分たちでできる震災復興活動」として活動をスタート。必要に応じて大人がサポートすることもあります。基本的には、事業の企画立案から実行までを担うのはすべて子どもたち。これまでに、子ども商店街でのご当地グルメの開発を始め、子どもラジオ、子ども応援CM、子ども農場、被災地への研修旅行といった活動を実施。子どもたちが主体となりながら、親子が一緒になって震災からの復興支援はもちろん、さまざまな問題の解決に取り組んでいます。



■特定非営利活動法人 こそだてしっぷこそだてシッブ（岩手県大船渡市）

～助産師が中心となって取り組む、子育てのしやすいまちづくり～

岩手県大船渡市、陸前高田市、住田町からなる気仙地域には元々、出産のできる病院が1ヶ所しかなく、そこに震災による甚大な被害が重なったことで、産前産後の母子を取り巻く環境はさらに厳しいものとなりました。この気仙地域を、お母さんや赤ちゃんが安心して暮らすことのできるまちにするために、助産師が中心となって、サロンを始めとした子育て支援活動を行っています。震災後、行政による新生児訪問もままならなかった時期から活動をスタートさせ、今では行政からの委託を受けて、地元の商業施設の中に常設の子育て支援室「すくすくルーム」も開設するなど、子育てに優しいまちづくりを目指して活動しています。



ひがしにほんだいにんさいけんいきそうせい
■東日本大震災圏域創生NPOセンター「いしのまき寺子屋」(宮城県石巻市)
てらこや

～被災後の行き場のない子どもたちのための、子どもたちによる居場所づくり～

震災直後から、避難所で子どもたちが安心して過ごすことのできる居場所をつくるとともに、彼らの声を大事にしながら、学習支援や遊び・アートを絡めたさまざまなプログラムをスタートさせました。復興が進むにつれ避難所は徐々に閉鎖されていきますが、避難所で過ごす時間を心の拠りどころとしていた子どもたちのために、避難所の外の新たな拠点として、「いしのまき寺子屋」を開設し活動を継続させています。現在は、子どもたちが安心して活動できる場をさらに広げるために、地域の人々や大学生ボランティアと一緒に子どもたちがいつでも遊びに来られる場所、「こども王国」の展開を進めています。



◎女性研究者への支援 10名

スミセイ女性研究者奨励賞 10名

■アリポヴァ カモラ:京都大学大学院 人間・環境学研究科

<研究テーマ>

近代日本における国語の成立 ー仮名遣^{づかい}改定という問題に着目してー

■岩瀬^{いわせ} 裕子^{ゆうこ}:首都大学東京大学院 人文科学研究科 社会人類学

<研究テーマ>

スポーツと伝統文化のはざままで ースペイン・カタルーニャ州の「人間の塔」を事例としてー

■植^{うえ} 朗子^{あきこ}:神戸大学大学院 国際文化学研究推進センター

<研究テーマ>

ドイツ語圏の民間伝承における「こども」の表象と救済

■白神^{しらが} 晃子^{あきこ}:信州大学 地域戦略センター

<研究テーマ>

地域における障がい児者および関係機関の防災意識と災害時対策

■田村^{たむら} 彩子^{さいこ}:京都府立大学大学院 文学研究科 学術研究員

<研究テーマ>

中国民間伝承における歴史観の研究

■林^{はやし} 淳子^{じゅんこ}:東京大学大学院 人文社会系研究科

<研究テーマ>

日本語コミュニケーションにおける疑問文の役割 ー疑問文多機能化の通時的分析を通してー

■白^{へく} 凜^{りん}:東京大学大学院 総合文化研究科地域文化研究専攻

<研究テーマ>

戦後の在日コリアン美術 ー1945年から1960年代の造形・運動・史料を中心にー

■松本^{まつもと} 美予^{みよ}:京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科

<研究テーマ>

スリランカ農村における人と自然の関係史

■山本^{やまもと} 佳奈^{かな}:広島大学 グローバルキャリアデザインセンター 特別研究員

<研究テーマ>

平安時代の儀式と音楽

■吉田^{よしだ} 舞^{まい}:特定非営利活動法人 社会理論・動態研究所 研究員

<研究テーマ>

マニラ首都圏におけるストリート・ホームレスと先住民:労働と居住の視点から

<住友生命社会貢献事業『未来を強くする子育てプロジェクト』概要>

主催： 住友生命保険相互会社
後援： 文部科学省、厚生労働省
審査員： 選考委員長 汐見 稔幸氏（白梅学園大学学長・東京大学名誉教授）
選考委員 おおひなた まさみ 大日向 雅美氏（恵泉女学園大学大学院平和学研究科教授）
おくやま ちづこ 奥山 千鶴子氏（特定非営利活動法人びーのびーの理事長）
よねだ さちこ 米田 佐知子氏（子どもの未来サポートオフィス代表）
ほんじょう まさや 本城 正哉（住友生命保険相互会社 取締役 代表執行役専務）

【子育て支援活動の表彰】

募集内容： より良い子育て環境づくりに取り組む個人・団体を募集します。各地域の参考になる特徴的な子育て支援活動を社会に広く紹介し、他地域への普及を促すことで、子育て環境を整備し、子育て不安を払拭することを目的としています。

応募要件： ◆子育て支援に資する諸活動を継続的にしていること。
◆活動内容が社会に認められ、ロールモデルとなりうるものであること。
◆活動の公表を了承していただける個人・団体であること。
◆日本国内で活動している個人・団体であること。
◆震災復興応援特別賞の対象については、東日本大震災の被災者の支援、復興のために子育て支援活動を行う個人・団体であること。

表彰： ◆文部科学大臣賞（スミセイ未来大賞受賞者の1組に授与）／表彰状
◆厚生労働大臣賞（スミセイ未来大賞受賞者の1組に授与）／表彰状
◆スミセイ未来大賞 2組 / 表彰状、副賞 100万円
◆スミセイ未来賞 10組 / 表彰状、副賞 50万円
◆スミセイ震災復興応援特別賞 3組 / 表彰状、副賞 50万円

応募数： 計 187組

【女性研究者への支援】

募集内容： 育児のため研究の継続が困難となっている女性研究者および、育児を行いながら研究を続けている女性研究者が、研究環境や生活環境を維持・継続するための助成金を支給します。人文・社会科学分野における萌芽的な研究の発展に期待する助成です。

応募要件： ◆人文・社会科学分野の領域で、有意義な研究テーマを持っていること。
◆原則として、応募時点で未就学児（小学校就学前の幼児）の育児を行っていること。
◆原則として、修士課程資格取得者または、博士課程在籍・資格取得者であること。
◆2名以上の推薦者がいること（うち1名は、従事した、または従事する大学・研究所等の指導教官または所属長であることが必須）。
◆現在、大学・研究所等に在籍しているか、その意向があること。
◆支援を受ける年度に、他の顕彰制度、助成制度で個人を対象とした研究助成を受けていないこと（科研費・育児休業給付などは支給していても応募いただけます）。
※この事業では、過去の実績ではなく、子育てをしながら研究者として成長していく方を支援したいと考えています。そのため、研究内容のみで判断することはありません。

※国籍は問いませんが、応募資料等への記載は日本語に限ります。

表彰： ◆スミセイ女性研究者奨励賞 10名 / 表彰状、助成金1年間100万円(上限)を最大2年間支給。

※支給期間は平成28年4月から平成30年3月までの2年間

応募数： 計 123名